



みなみっ子

学校教育目標

自立

協働

創造

54号

令和8年8月20日(木)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

PTA 主催 防災キャンプ

単なるキャンプイベントではなく、大里南小学校の防災庫や設備を活用した『避難所体験』です。

1 なぜ「宿泊」が必要なのか？

県外・全国の被災事例からの教訓:災害発生時、避難所(体育館など)での過酷な環境(硬い床、プライバシーの欠如、暗闇、夜間の不安)は、昼間の訓練だけでは体験・想定できません。

大里南小学校の設備活用:避難所指定校であり防災庫も備わっているため、「実際にここで夜を越す」という疑似体験(避難所宿泊体験)こそが、いざという時の適応力につながります。

2 なぜ「遊び(プレイカー)」が必要なのか？

「楽しそう」「参加してみたい」という動機(敷居を下げる工夫)はもちろんですが、それ以上に緊急時における遊びの重要性が理由として考えています。

子どもの心のケア(ストレス軽減):災害時、環境の急変により最もストレスを受けるのは子どもたちです。「遊ぶこと」は子どもにとって心の安全基地を取り戻す大切な時間になります。

プレイカー(移動式遊び場)の災害支援実績:過去の大規模災害でも、被災地支援としてプレイカーが派遣され、子どもの居場所づくりや心のケアに大きな効果を発揮しています。

※宿泊伴う訓練だからこそ見えてくる課題を、楽しく検証します！

- ①防災講話→いざという時の対処方法などを知る。
- ②防災庫の活用 学校の防災庫にある資機材を実際に活用。いざという時にどこに何があるかを知る。
- ③炊き出し体験(BBQ) 炭起こしや野外調理を通じた「非常時の火の取り扱い・食糧確保」の疑似体験。
- ④就寝準備・就寝(体育館) 体育館での宿泊体験。硬い床、音、明かりなど「避難所のリアル」を体感。
- ⑤防災食(非常食)の試食 防災庫に備蓄されている非常食の調理・食べる体験。

「避難所宿泊体験」で身につける、いざという時の適応力

防災キャンプが単なるイベントではなく、避難所生活の過酷さを知り、子どもの心のケアを学ぶ重要な機会であることを伝える。

昼間の訓練では見えない「避難所のリアル」



硬い床や夜の不安など、宿泊して初めて分かる課題を親子で検証します。

なぜ「宿泊」と「遊び」が必要なのか？



子どものストレスを軽減する「遊び」の力



災害時の心の安全基地として、プレイカー(移動式遊び場)によるケアが効果を発揮します。

防災キャンプでの具体的な体験

備蓄資機材の活用と炊き出し体験



防災庫の場所を確認し、火起こしや野外調理による食糧確保を実践します。

体育館での就寝と非常食の試食



避難所の環境(音・光・床)で夜を越し、備蓄された防災食を実際に調理・試食します。



防災庫の
確認・活用

炊き出し・非常食
火の取り扱いと
非常時の食糧確保

体育館宿泊
避難所の環境適応と
課題の発見